



# JSQC ニュース

No.258

発行 社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03(5378)1506 FAX.03(5378)1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス 医療の質向上の取り組み
- 2-私の提言 自己適合宣言のすすめ
- 2-The 10th International Symposium on QFD
- 3-AQS論文募集/研究会メンバー募集/新規研究会受付/12月の入会者紹介
- 4-19AQS Call for Papers / 行事案内 / 論文募集

## 医療の質向上の取り組み

東北大学大学院 医学系研究科国際保健学分野・医療のTQM推進協議会 代表幹事 上原 嗚夫

いま医療の質のあり方が問われています。これは日本の医療だけの問題ではなく、欧米の医療界においても医療の質と安全がいま最もホットなテーマになっています。

米国医学研究所の報告書は、米国で毎年44000人から98000人の患者さんが医療事故で死亡しており、これは乳がんや交通事故による死亡の数をも上回るものと指摘しました。

ここ数十年間の目覚ましい医療技術革新が医療の役割を広げる一方で同時にその不確実性を増大させ、いわば古い革袋のまま新しい酒を無理やり詰め込んできた結果が随所にほころびとして現れているのです。欧米各国はいま、医療の質とは何かを改めて問い直し、組織を挙げて医療を提供するシステムの改革に取り組んでいます。

日本では1980年ごろから病院でもQCサークル活動が行われるようになりました。日本は欧米のどこよりも早く「医療における改善」を始めたのです。しかし、病院経営者や医師の理解や関心が得られず、看護や検査、事務が中心になっていたために、「臨床的な質」をテーマにすることが難しく、主としてサービスの質や業務効率がテーマになっていました。また、同じ理由で、トップのリーダーシップがないために組織を挙げた

取り組みとならず、TQMに発展することはありませんでした。それでも、地道にサークル活動を続けたところでは、患者本位の考え方が浸透し、さまざまな改善を実現してきました。

「TQMの医療への展開」研究会(日本品質管理学会)の提唱により1997年と1998年の2回にわたって病院QCサークル活動を考えるワークショップが開催され、参加した病院やサークルからこのような交流機会を続けたいという希望が多く寄せられたため、活動交流を支援する母体として1998年1月に「医療のTQM推進協議会」が設立されました。協議会は患者本位の質の確立を目指す病院と医療者の自主的なネットワークで、毎年秋に全国フォーラム「医療の改善活動」を開催するほか(今年は10月27-28日に札幌で開催されます; www.tqm-health.gr.jp参照) 医療事故防止に関するシンポジウムやワークショップ、セミナーなどを開催し、医療における質の改善とTQMの考え方の普及に努めています。

患者本位の質を確立し向上させるためには、また医療事故防止のような臨床的な質不良の問題を解決するためには、職種や部門を越えた改善の取り組みやシステムの改革が不可欠です。病院QCサークルは優れたモデルがすでにできていますが、病院

TQMの優れた実践モデルはまだありません。このため、厚生科学研究の一環として、医療者と企業の品質管理専門家の協力による「医療版TQMのモデル作り」プロジェクト(NDP=医療のTQM実証プロジェクト; <http://www.ndpjapan.org/>)が2000年にスタートしました。NDPを通じて病院の中にQエキスパートが育ち、医療の質不良をなくするためのさまざまな取り組みが進められるようになりました。

医療は、とりわけ、産官学が緊密に連携して不良品の低減に真剣に取り組んだ草創期の「QC」「TQC」にこそ学ぶべきことがたくさんあると考えています。産業界のQCを支えたものの一つで医療界が欠いているものがあります。それは、質を選ぶ消費者です。顧客が質を求めない限り、医療はプロダクト・アウトから脱することができないでしょう。

ほとんどすべての人が、いつかは必ず医療を必要とします。あなたが病気になったら、あなたはどのように病院を選ぶでしょうか? どんな医療を求めるのでしょうか? 日本品質管理学会の会員の方々にはぜひ医療の現実と医療が直面する問題に目を向けていただき、質を求め質を選ぶ「賢明な医療消費者」という立場から医療の質改革運動に加わっていただきたいと願っています。

## 私の提言

## 自己適合宣言のすすめ

財団法人 日本規格協会 監事 竹下 正生



わが国のISO 9001の審査登録件数は約4万件(JAB)で、既に伸び悩みの状況である。英国では減少傾向にあると聞く。漸く審査登録ビジネスに対して、市場が冷静に対応できるようになったのであろう。

巷間では“ISOを取得しても品質はよくなる”と言われていていると聞くが、この表現は、さもISO9001規格がよくないような印象を少なからず与えている。しかしながら、実際には、審査方法も含めて審査登録制度の運営そのものがよくない結果だと考える。規格の内容と運用方法を一緒にして議論

するのではなく、ここは“層別”して議論してもらいたいものである。そのためかどうかわからないが、登録返上がそのままISO9000体制の放棄へと短絡してしまう現象が生じていると聞く。本当に残念なことである。

ところで、飯塚会長は、品質誌34巻第4号の「Q-Japanよ再び」の中で、“自律型精神構造の獲得”を唱えている。ここで言う“自律”とは、カントが唱えた“自律”と恐らく同義であろう。カントは、“自律とは、自ら進んで～せずにはいられないので、行う”という行為で、道徳性と人格の尊重が成り立つ行為であるとし、更にこのような行為を生み出すものを、「悟性」と名付け、理性と悟性を結びつけるものとして「反省的判断力」というもの

を考えた。反省的判断力とは、具体的な事象から法則性を探っていくようなことで、既に存在する規則や法則・原理といったものに当てはめていくようなことではない。

話を元に戻して、審査登録制度のような適合性評価の方法には、“自己適合宣言”という方法も広く認知されている(ISO17050)ので、登録を返上してもISO9000体制を維持し、自己適合宣言をできるような体質を身に付けてもらいたいと考えている。いわば“有言実行”である。もちろん大変なことは思うが、それこそ自律型精神構造を獲得すれば容易である。

このことが一般的になれば、第三者審査は、顧客に今以上の付加価値を与えなければならなくなり、必然的に第三者審査の質向上が期待できる。

第三者審査のみという市場から、自己適合宣言を含めた市場への拡大転換を支援するために、当学会が“自律的ISO9001自己適合宣言ガイドライン”を作成してはどうだろうか。

## The 10th International Symposium on QFD

渡辺 喜道(山梨大学大学院 医学工学総合研究部)

2004年11月18日と19日の両日、メキシコ国ヌネオレオン州モンテレイ市のモンテレイ工科大学において、第10回品質機能展開(QFD)国際シンポジウムが開催された。参加者は昨年米国で開催された第9回シンポジウムより若干多い約60人であり、日本からの出席者は赤尾洋二先生を含む8人であった。米国、メキシコ、日本、ドイツ、トルコ、デンマーク、オーストラリア、ブラジル、イラン、スペイン、中国の11ヶ国から論文発表が行われた。

シンポジウムでは、赤尾先生とQFD InstituteのGlenn Mazur氏による基調講演のほか、2件の招待講演及び21件の一般論文発表があった。全世界でQFDは活用され発展しており、QFDの裾の広がりを実感できる会議であった。

また、QFDの研究並びに普及・発展に貢献した研究



左からMazur氏、赤尾先生、田中氏

者・実務者に対して授与される赤尾賞は(株)熊谷組CS推進室長の田中孝司氏(写真右端)に授与された。受賞は、長年のQFDに関する功績やQFDを活用した新製品開発システムの研究活動(デベロップメントマネジメント)、ナレッジマネジメントとQFDの融合を図る研究などが評価されたもので、建設業界からは初の受賞者となった。

次回の第11回シンポジウムは2005年9月26日～30日にトルコ国Izmir 近郊のKusadasi-AydyにあるPine Bay Holiday Resort Hotelで開催される予定である。詳細は<http://www.isqfd2005.org/>に掲載されている。

## Call for Papers (JSQCメンバー向け) The 3rd ANQ Congress and 19th Asia Quality Symposium - Quality : Agile Strategy In Asian Network -

Organized by Asian Network for Quality  
Hosted by Chinese Society for Quality (Chinese Taipei)

### 参加のお勧め

2005年9月18日～21日台北にて、第3回アジア品質ネットワーク (ANQ : Asian Network for Quality) Congress 及び第19回アジア品質シンポジウム (19th AQS) が開催されます。AQSは、ANQに加盟する品質に関する14組織が開催するシンポジウムで、グローバル社会におけるアジア品質の更なる向上を目指して議論を行います。今回のホスト組織は、Chinese Society for Quality (Chinese Taipei) です。詳細はJSQCホームページよりCall for Papersをダウンロードの上ご確認ください。決定事項は順次ホームページにて紹介いたします。http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji.html

テーマ : Quality: Agile Strategy In Asian Network  
場所 : Grand Hotel in Taipei City, Taiwan(圓山大飯店)

公式言語 : 英語

アブストラクト提出 : 4月15日(金) JSQC宛

1. 論文題目, 2. 著者と所属, 3. 連絡先, 4. 「若手研究者の旅費支援」希望の有無, 5. 要旨 (A4 1/2ページ, シングルスぺース)

フルペーパー提出 : 6月15日(水) JSQC宛

ANQは構成する各団体によって成り立っており、参加者は所属団体 (JSQC) を通して申し込むことが原則となっております。個人として、直接CSQに申し込むことも不可能ではありませんが、原則の趣旨をご理解の上、4月15日までのJSQCへの申し込みを強くお勧めします。

JSQC国際委員会のおすすめイベント  
JSQCを通して要旨を提出した方を対象とします。

#### (1)若手研究者の旅費支援

JSQCでは、大学院生を対象に一つの発表に対して第1著者で本人が発表する場合に3万円の旅費支援を行います。該当者が多数の場合には、発表内容の評価が高い順に、10名程度を選びます。

#### (2)論文賞

若手研究者を対象とした「最優秀論文賞」があります。第1著者で大学院生などの若手研究者が賞の選考対象となります。特別な手続きは必要ありません。詳細は改めてご案内いたします。

## 新規研究会メンバー募集

### 中部医療の“質”管理研究会

従来、医師の固有技術を核に縦系列の運営が行われていた医療の世界に、品質管理を中心とした考え方・手法の導入・普及を行い、成果を上げようとする研究会を新たに発足します。メンバーは医師、看護師、その他の医療関係の方々、品質管理を中心に研究を行ってきた企業・学校関係者で構成する予定です。特に今回は、関中央病院院長 斉藤雅也先生の強いご意見で発足に至った経緯もあり、医療関係者のご期待に沿える研究会にしたいと考えています。積極的なご参加をお待ちしています。

主 査 : 國澤英雄 (朝日大学経営学部 教授)

開催日 : 第1回・2005年4月19日(火)18時～20時  
(以後月1回第3火曜日)

場 所 : 村上記念病院 (JR岐阜駅前)

申込方法 : 会員番号・氏名・所属・連絡先を明記の上、FAXまたはE-Mail (office@jsqc.org) にて本部事務局までお申し込みください。

定 員 : 20名

## 新規研究会を受け付けます

研究開発委員会では、本年度に設置する新規公募研究会の申請を受け付けます。奮って申請してください。とくに若手会員を主査とする研究会を歓迎いたします。

研究期間 : 2005年10月～2006年9月 (1年間)

申請方法 : 「新規研究会設置申請書」(様式204-1)をホームページよりダウンロードし、ご記入の上、郵送で本部事務局宛にお送りください。

http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyuukai\_shinki.html

申込締切 : 2005年4月25日(月)必着

### 研究会の申請と運営 :

研究会の申請にあたり、申請者は共同研究者 (学界・産業界) を5～10人位事前に働きかけて集め、申請書に記入する。理事会承認後JSQCニュースでメンバーを公募する。

研究目的と年間の研究活動計画を作成する。

1研究会のメンバーは20人まで。

会場は原則として日本科学技術連盟東高円寺ビル会議室。

時間は18時～20時。ただし会場の都合がつけば午後でも可。食事支給。

研究会運営費は一人1回当たり1150円 (内訳 : 通信費・資料代・食事代) ただし年間開催数は11回を限度とする。

## 2004年12月の入会者紹介

2004年12月14日の理事会において、下記の通り正会員7名、準会員6名、賛助・公共会員3社3口の入会が承認されました。

(正会員7名) 吉田 純 (三菱レイヨン)  
佐藤 文彦 (住友軽金属工業) 金治

秀樹 (富士写真フイルム) 川崎 勝也  
(久留米大学病院) 糺谷 和人 (オムロン)  
武藤 政春 (高周波熱錬) 齊藤 雅也 (香徳会 関中央病院)

(準会員6名) 青木 康祥・奥田 道明・  
川原 圭貴・青木 政親・川崎 康隆 (東京理科大学) 井上 真二 (鳥取大学)

(賛助・公共会員3社3口) IRIコピテック  
クボタ松下電工外装 岡谷電機産業

正 会 員 : 2958名

準 会 員 : 154名

賛助会員 : 173社200口

公共会員 : 22口

# Call for Papers The 3rd ANQ Congress and 19th AQS開催!! (詳細は中面3ページをご覧ください)

## 行 事 案 内

### 第93回(中部支部第44回)講演会

テーマ:「日本のものづくり」における競争優位を確保するために「問題・課題解決力」「マネジメント力」の育成・強化 -

日 時: 2005年3月9日(水)13:30~17:00

会 場: シャインズ

プログラム:

講演1:「問題の問題は人 - 問題解決の進め方 -」

鈴木 進氏(株)ソプロ研究所)

講演2:「グローバル競争に勝ち抜く戦略 - 技術力&マネジメント力革新で最強のコア・コンピタンス創り -」

伊藤要蔵氏(アイシン精機(株))

定 員: 100名(会員優先)

参加費: 会 員4,000円 準会員2,000円  
非会員5,000円 一般学生2,500円

申込締切: 2005年2月28日(月)到着分

申込方法: 会員No.・氏名・勤務先・所属(役職)・TEL・連絡先住所を明記の上、中部支部事務局までお申し込み下さい。

### 第303回事業所見学会(本部)

テーマ: 航空機整備の品質保証(仮題)

日 時: 2005年3月10日(木)13:30~16:10

見学先: JAL整備工場(羽田)

定 員: 30名(会員優先)

参加費: 会 員2,500円 準会員1,500円  
非会員3,500円 一般学生2,000円  
当日払い

申込締切: 3月9日(水)到着分

申込方法: 本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

### 第46回クオリティパブ(本部)

テーマ: ものづくりの魂

~自動改札機の開発に携わって~

ゲスト: 田中寿雄氏(元・オムロン(株))

### 「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、**報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロン**です。

論文誌編集委員会

日 時: 2005年3月18日(金)18:00~20:30

会 場: 日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階研修室

定 員: 30名

参加費: 会員3,000円 非会員4,000円

準会員・一般学生2,000円

(含軽食・当日払い)

詳 細: ホームページをご覧ください。

申込方法: 本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

### 第101回シンポジウム(本部)

テーマ: Q-JAPAN! - 品質立国日本再生への道 -

日 時: 2005年4月16日(土)10:00~17:00

会 場: 明治大学 リパティタワー1F

リパティホール

プログラム: (タイトルは仮題です)

基調講演: Q-JAPAN構想の全体像

飯塚悦功氏(東京大学)

講演1: 競争優位の経営戦略

長田 洋氏(山梨大学)

講演2: TQMの課題と将来

前田又兵衛氏(前田建設工業(株))

講演3: 企業経営とTQM

桜井正光氏(株)リコー)

定 員: 300名

参加費: 会 員5,000円(締切後5,500円)

非会員7,000円(締切後7,500円)

準会員2,500円 一般学生3,500円

申込締切: 2005年4月6日(水)

申込方法:

同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

### ISO9000s審査員のためのTQM基礎講座(本部)

- 毎月1回6回開催・会員優先 -

時 間: 毎回9:30~12:30

講義1時間30分、演習1時間、質疑  
CPDの証明時間は3時間です。

会 場: 日本科学技術連盟

東高円寺ビル2階講堂

プログラム:

第1回 4月23日(土)

TQMのフレームワークと基本原則

担当: 中條武志氏(中央大学)

第2回 5月14日(土)

TQMのための手法 - SQCとその活用

担当: 山田 秀氏(筑波大学)

第3回 6月18日(土)

TQMの活動要素(1) - 日常管理と標準化

担当: 平林良人氏(株)テクノファ)

第4回 7月23日(土)

TQMの活動要素(2) - 方針管理と改善活動

担当: 村川賢司氏(前田建設工業(株))

第5回 8月27日(土)

TQMの活動要素(3) - 品質保証と新製品開発

担当: 棟近雅彦氏(早稲田大学)

第6回 9月10日(土)

新JISと標準化をめぐる最近の動向

担当: 矢野友三郎氏(経済産業省)

定 員: 毎回先着100名

参加費: 会 員4,000円(各回)

(6回一括申込: 20,000円)

非会員8,000円(各回)

申込締切: 2005年4月15日(金)

(各回とも締切は開催の1週間前)

申込方法:

同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

### 第77回研究発表会(本部)発表募集

日 時: 2005年5月27日(金)・28日(土)

会 場: 日本科学技術連盟・千駄ヶ谷 本部

(1)申込期限

発表申込締切: 3月31日(木)

予稿原稿締切: 4月28日(木)必着

参加申込締切: 5月17日(火)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

1月送付の発表申込要領をご覧ください。

(3)参加申込

3月送付の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。

### 行 事 申 込 先

本 部: 166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

(財)日本科学技術連盟

東高円寺ビル内

(社)日本品質管理学会

TEL: 03-5378-1506

FAX: 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

事務局携帯: 090-9128-7979

中部支部: 460-0008 名古屋市中区栄2-6-1

白川ビル別館

(財)日本規格協会 名古屋支部内

(社)日本品質管理学会 中部支部

TEL: 052-221-8318

FAX: 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp